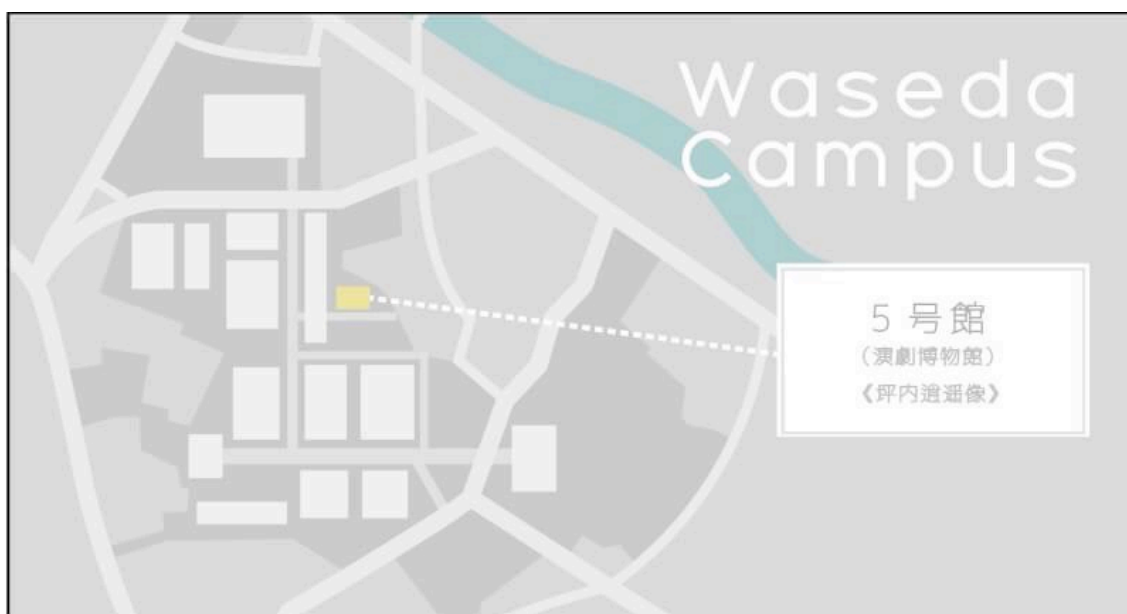


## 早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館



### ① 早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館



設計者：今井兼次

竣工年：1928年

早稲田大学文学部の設立者である坪内逍遥博士(1859-1935年)の古稀と『シェークスピア全集』の翻訳完成を記念し、建てられた博物館である。アジア唯一の演劇専門の博物館であり、コレクションは約100万点を数える。逍遥の唱えた「日本だけでなく、世界中の演劇を研究できる施設」にするため、世界各地の資料が収集されている。収蔵品だけでなく、建物自体も資料的価値を持っている。16世紀エリザベス朝時代イギリスのフォーチュン座

を模したもので、正面には屋根付きの舞台があり、建物の前の広場が一般席、舞台を囲む両側が敷席というつくりとなっている。フォーチュン座はシェークスピア劇団の本拠地である第一グローブ座に対抗して、ロンドン郊外に建てられた劇場である。グローブ座と同じ建築家が設計、建設したが、グローブ座は八角形、フォーチュン座は四角形であることが大きな相違点である。1600年に開場したが、1621年には火災があり、2年後に再建された。設計者の今井兼次(1895-1987年)は早稲田大学工学部建築学科を卒業しており、早稲田大学の教授も務めた。1963年に《日本二十六聖人殉教記念館》で日本建築学会賞を受賞しており、他にも1966年に日本芸術院賞、1977年に日本建築学会賞大賞を受賞している。

執筆者：中富英美

## ② 《坪内逍遙像》



制作者：長谷川榮作

制作年：1962年

場所：演劇博物館横

大正から昭和初期にかけ活躍した彫刻家、長谷川榮作の作品。演劇博物館創立70周年を記念して鑄造された。シェークスピアについて講義中の坪内逍遙を表している。早稲田大学で教鞭をふるった逍遙は、近代日本文学や演劇活動の発展に貢献した人物でもある。洋装に身を包んで左手には教本を持ち、右手は諭すように前方に差し出されている。髭を蓄えた口元は一文字に結ばれており、額に皺を寄せるほどの力強い眼差しで正面を見据えている。「坪内逍遙像の右手と握手すると早稲田大学に合格できる」という噂を聞きつけた受験生が握手をしていくため、胸像の右手だけが銅色に変色している。台座には會津八一自筆の和歌が刻まれている。八一は早稲田大学で英文学を学んだのち、坪内逍遙の招きに応じ早稲田の教員となった。歌碑の内容は、恩師である坪内逍遙の講義する姿を偲んだ和歌

である。

むかしひと こゑもほからに たくうちて とかししおもわ みえきたるかも

歌意：坪内先生が、声高らかに教卓を打ちながら講義されたその顔が、まざまざと思い出される。

執筆者：高瀬杏

参考資料：

① 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

公式ホームページ

〈<http://www.waseda.jp/enpaku/>〉、2018年1月21日最終閲覧

WAA 早稲田建築アーカイブス 今井兼次

〈<http://waarchives.org/person/016/>〉、2018年1月21日最終閲覧

演劇博物館パンフレット

演劇博物館内展示パネル

② 《坪内逍遥像》

東京文化財研究所「物故者記事：長谷川栄作」

〈<http://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/8568.html>〉、2018年1月21日最終閲覧

歴史群像—学研デジタル歴史館「TOKYO 銅像マップ—早稲田～新宿」

〈<http://rekigun.net/original/travel/statue/statue-07.html>〉、2018年1月21日最終閲覧